

平成 20 年度 NPO からの協働事業提案
**「盲導犬の入店・宿泊拒否を解消し、県内の観光事業および三重県のイメージアップを
はかる、行政および関連業者団体との協働事業」**

第 1 回公開検討会 報告書

日時 平成 20 年 7 月 1 日 (火) 13:30 ~ 15:30

場所 伊勢庁舎 会議棟 3 階第 6 号室

参加者 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター (野口) 社会福祉室 (徳本)
伊勢志摩 NPO ネットワークの会 (森本) 健康福祉総務室 (鈴木)
男女共同参画・NPO 室 (堀木、辻、明石) 三重補助犬普及協会 (多賀、小川)

自己紹介

1 協働事業提案の仕組みと公開検討会の意味

議事進行・サポート委員について (堀木)

H15 年から協働事業提案・検討・翌年から事業開始するという事業が始まった。
今年度は検討の年と認識している。問題意識をすり合わせアイデアをだして検討していく。
オープンな場を想定しているので、さらに多くの方々の参加を歓迎する。
サポート委員には伊勢志摩 NPO ネットワークの会の森本かおりさんをお願いした。
いろいろな方にかかわっていただき、よい事業化にしていきたい。

事務局運営・運営業務委託契約について (堀木)

検討会事務局運営について三重補助犬普及協会に委託する。

検討会メンバーについて (堀木)

3 室と伊勢志摩バリアフリーツアーセンターがかかわっているが他にあれば参加していただく
ことができる。よりよいものにするために各関係機関に協力を仰ぎ、必要なら検討会にも参加して
もらい進めていく。

地域の UD,地域の視覚障がい者協会などにも協力を呼びかける。(多賀)

飲食店も対象なら保健所の参加をお願いしても良いのではないかと。(野口)

2 「盲導犬の入店・宿泊拒否を解消し、県内の観光事業および三重県のイメージアップを はかる、行政および関連業者団体との協働事業」

事前協議で出された項目についての情報共有 (1 ~ 3)

(1) 現在の補助犬の受け入れ状況 (補助犬普及協会 多賀)

県内の盲導犬は当初の 8 頭から 12 頭になったが人口比にすると最低レベルの頭数である。

これには障害者自身の自立の意志が弱いこともある。しかし視覚障害者が行きたいときに行

きたいところに一人で行ける。これは盲導犬としか出来ないことである。

介助犬は手を上げている人もいるが、オーダーメイドなので費用的にも高いし、施設が近くにないこともあり、使用希望があってもなかなか、実現しにくい状態である。聴導犬は全体にスタートラインについたところで、遅れている。

全国盲導犬使用者の方々の中で、伊勢志摩は盲導犬拒否があるとの風評がある。かなりのマイナスイメージである。この事業により、イメージアップにつなげる。これは過去に何回かしてきた講演会では伝えきれない事業である。

戸別訪問で実際に見ていただくことを主眼とする。

現在どこが OK か把握できていない。対応がきちんとできるような状態にしたい。

2 それぞれの主体における取り組み予定の紹介（検討会参加者全員より）と

3 過去の取り組みの情報共有をふくめて。

UD 鈴木

昨年度企業向けの講演会をした。また学校 UD 講座で UD、車椅子、高齢者、アイマスク体験などの講座を開催。

UD まちづくり賞で小・中学校からの UD アイデアとポスター（補助犬・車椅子駐車）等を募集し、表彰を行ない、補助犬クイズを行なった。

今年も UD まちづくり賞の募集を行なっているところである。

社会福祉室 徳本

過去 4 年間の取り組みのについての参考資料を読み上げた。

昨年 1 2 月、補助犬法の改正があり、56 名以上の民間企業は、勤務している障がい者の補助犬使用を受け入れなければならない。また、都道府県における相談窓口の設置が規定された。実際の苦情に対しては事実確認を行い、保健所と連携を取り、法律の趣旨や補助犬の受け入れ方法など、納得するまで話をするといった対応をしてきた。

今年度は、厚生労働省からポスターとパンフレットが送られてきたので、県有施設や病院、各地の観光協会に送付する予定。

伊勢志摩バリフリ 野口

16 年度に実施した「伊勢志摩における補助犬法周知の現状と啓発活動」のアンケート結果について結果報告が行なわれ、かなり浸透しているが現在でも宿泊拒否が行なわれている状況があり、この協働事業と、今自分のグループで企画している「だんないキャンペーン」が一緒に出来るともっと効果があるのではないかと。たとえば、「だんないシール」を作るとかいろいろ広がりができるのではないかと。

観光局（NPO 室堀木から説明）

藤田さんが欠席のため資料を用意してくれた

「魅力ある観光地グレードアップ支援事業費補助金交付要領」について説明あり。

多賀

目指すものは旅館・飲食店への宿泊・入店100パーセントOKの状態。

市民への理解の推進に戸別訪問は効果がある。

伊勢志摩の旅館・飲食店への啓発を全国に発信していく。全国的にも始めての試みである。

イメージとして

鈴木 啓発は広がりが必要である。店も多く、個別訪問の結果をどのようにひろげていったらよいか？

多賀 出来る可能性のあるところから第一歩が大事である。

徳本 県内に広げて行って欲しいが、今回は伊勢志摩でマスコミを通して広げていけばよい。四日市では拒否の店の半分以上が軽い気持ちで入店拒否と答えている。しかし話をするうちに理解をしてもらえる。厚生労働省から来ているシールつきのちらしをおくだけでもかなりの啓発になるので使ったらどうか？

野口 トラブルのないような観光地が理想である。
苦情を受け入れていく。車椅子も補助犬使用者も地元には少ないから、外からよんで観光してもらおう。補助犬の聖地として利用者から言われるような環境をつくり、携わる人たちの意識向上を図り、理解をしてもらおう。補助犬を必要なんだと理解されるような状態までもっていきたい。

4 今後の見通し

方向性として

伊勢志摩はモデル地区として宿泊・飲食店に出向き、見て知ってもらおう。

マスコミなどを使って発信・行けないところにも知ってもらおう。

若おかみの会に説明（三重補助犬普及協会）

泊まって地域を回ること、効果的に回るルートを考えてもらう。

泊まる場所など相談してくる。

7月2日 南伊勢町おかみの会

7月16日 鳥羽若女将の会うめの蕾の会

未定 志摩いそぶえの会

NPO 室 今年度は検討会で助走の段階である。来年度予算は9.10月頃までに事業の内容をねりあげて当局に出していくことになる。役割分担が必要

サポート委員の森本さんのリードで、ひとつひとつの項目について確認をしながら、進めていただいた。

次回には具体的プランについて意見交換をして進めていく。

第2回検討委員会 8月5日（火）PM1:30～PM3:30 伊勢市二見生涯学習センター

以上